

虐待・DVに歯止めを

妊娠前〜子育て総合的に支援

岡山大病院(北区鹿田町2)は10月1日、妊娠や出産などに関する相談を受け付けるサポートセンター「妊娠・安心相談室」を同病院内に新設する。不妊や、妊娠はするものの流産や死産を繰り返す「不育」についての相談室を既に開設しており、両相談室が連携して妊娠前から子育てまで総合的な支援が実現。子供への虐待やDV(ドメスティックバイオレンス、配偶者間暴力)などの問題に歯止めをかけようという狙いだ。

【原田悠自】



10月1日から利用可能になるサポートセンター「妊娠・安心相談室」の開所式。北区鹿田町2の岡山大病院で

岡山大病院にサポートセンター

県子ども未来課によると、2012年度に無理心中などを除き虐待で死亡した子供は全国で51人。うち4割以上の22人が1歳未満だった。加害者の大半が実母で、10代の女性も多かったという。また、昨年度に県内の児童相談所が把握した子供の虐待件数は849件で、育児放棄(ネグレクト)が半数以上を占めた。同課は望まない妊娠で、出産後どうしていいか分からず放置してしまうなどの例が考えられる」と分析する。こうした事態を受け、岡山大病院は県の委託を受け、サポートセンターの新設を決めた。相談員は、助産師、

産婦人科医、臨床心理士、社会福祉士など。医学的な問題から心理的、経済的な悩みまで幅広く対応できるという。同病院は04年から、不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」も開設しており、両センターの連携で、妊娠前から妊娠・出産、子育てまで切れ目のない支援が可能になる。

DV被害があり、背景には未婚や未成年、貧困などさまざまな問題がある。一般の女性が気軽に相談できる環境を作り、被害防止につなげたい」と話した。10月1日から毎週月水、金曜の午前9時から正午まで、電話や面談で相談を受け付ける。無料。面談の場合は予約が必要。相談専用電話は086・235・7899。メール(mnshin@okayama-u.ac.jp)との相談も受け付けているという。